

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400309		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム ほしおき おおぞら		
所在地	札幌市手稲区星置1条4丁目2-12 星置駅前メディカル2F		
自己評価作成日	平成29年9月22日	評価結果市町村受理日	平成29年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0190400309-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の3点である ①いつも笑顔で暖かく見守ります。②目配り、気配り、心配りを大切にしてチームケアを行っていきます。③地域とのふれあいを大切に明るい穏やかな生活をしていきます。を大切に、毎日のケアに取り組んでいるホームです。
同ビル1階には内科があり、日曜・祝日以外は、ホームの主治医として、毎日訪問診療の協力をいただいております。健康状態など、様々な相談にのっていただいております。
JR星置駅からも数分の場所に位置し、近所にはスーパーや公園などもあります。散歩を楽しんだり、町内会のイベントに参加するなど、地域との交流を図っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年10月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホームほしおき」は、JR駅から徒歩5分程の住宅地にある2ユニットの事業所である。遊歩道や公園と周囲には緑が多く、近くに老人保健施設、スーパー、銀行、医療機関があり住環境に恵まれている。当事業所は駅前メディカルビルの2階にあり、事務所を中心に2フロアーが左右にわかれ、大きな行事等はユニット合同で行っている。3階に整形外科、1階には協力医療機関の内科があり、往診の対応で本人・家族の安心感につながっている。就任3年目になる管理者は法人のエリアマネージャーに相談しながら意欲的に運営に力を注いでいる。ユニットリーダーと共に新しいことにも積極的に取り組み中である。家族の来訪時には利用者の意向を話し合い買い物や外食等、家族の協力を得て利用者の暮らしを一緒に支えている。全体会議やユニット会議、また個人面談で職員の意向を聞きながら働きやすい環境を整備している。職員は外部研修や勉強会で学びを深め、介護計画作成時には各職員がモニタリングを行い、評価を基に計画に沿って自立面を支えたケアを行っている。利用者との会話から出来ることを引き出してレクリエーションや暮らしの中で役割が持てるように工夫している。利用者は散歩で季節を味わい、職員と一緒に、いなり寿司やどら焼き等の食事づくりを楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・両ユニットに掲示。朝夕の申し送り時に読み上げ共有し、実践に繋げている。	事業所独自の理念に地域密着型サービスの文言があり、申し送りや会議で唱和して理念を深めている。会議では利用者に接する時に理念を意識して対応しているかを確認し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内かに参加し地域との繋がりを保っている。ボランティアや地域住民を招き交流を図っている。	隣接する施設祭りで太鼓演奏の際に、事業所内でも披露してもらっている。また毎月ボランティア来訪での多彩な催しもある。子供との交流で近くにある幼稚園に働きかけたが難しい事情もあり、託児所の子供との交流が可能か検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、ご家族、町内会連合会、地域包括支援センターの方々に、認知症ケアの在り方や理解などの話し合いや説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施内容、行事などの活動報告、自己・外部評価の内容について話し合い、頂いた意見をサービスの向上に活かしている。	地域住民、行政担当者、利用者、家族の参加を得て各報告のほか、認知症・オレンジリング、後見人制度などのテーマで活発に意見を交わしている。会議内容は充実しているが、意見交換が見えるような議事録として更に工夫が望まれる。	会議案内にテーマを記載して送り、参加できない家族の意見も得て会議に活かし、各報告のほか、情報・意見交換の場としての質疑応答がわかるような議事録の記載方法に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市、手稲区の管理者会議に参加。地域包括支援センターの職員は、運営推進会議に出席してもらい相談やサービスの取り組みなど意見を頂いている。	書類提出時に市役所に出かけて情報を交換することもある。市からのアンケートに協力したり、認知症カフェの情報も得て把握している。生活保護担当者とは定期訪問時に情報を提供し、電話連絡等その都度連携を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や研修で学んだ事を、職員の全体会議で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部や法人の虐待・身体拘束の研修に参加したり、小冊子を活用して勉強会を行っている。会議では事例に基づいて対応を話し合い、「禁止の対象となる具体的な行為」も確認している。禁止行為11項目を事務所に掲示して意識化を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、共通理解を深め、虐待防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や外部研修に参加し、学ぶ機会を設けられる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時について、重要事項説明書を用いて説明し、理解・納得を図っている。改定時は本社から書面での説明や連絡、来訪時にも管理者からの説明し、理解・納得が図られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、体制をとっている。利用者自らの訴えは、難しい部分もあるが、普段の生活の中から感じ取れるよう努めている。本社からもご家族へアンケート調査を実施、運営に反映している。	家族の来訪時には、状況報告の中でケアや介護計画について話し合っている。連絡事項や意見等は申し送りノートに詳細に記録している。今後は家族の些細な思いを把握できるように個別ごとの記録で更に職員間で共有を図りたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月の月例会議や職員会議において意見や要望を聞き、運営者に報告し反映させている。	合同会議後に各ユニットでカンファレンスを行い、活発に意見を交換している。業務担当職員から行事等の報告で検討している。管理者は年2回の個人面談で困っていることや改善について意見を聞き、向上心が得られるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談する機会を設け、状況に合わせ意見交換を行い、各自が向上心を持って働ける、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	札幌市の外部研修や、社内の研修に参加し、職員を育てる取り組みが行われている。新たに資格取得に向け、働きながらも研修に参加し育成していく環境作りも実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の研修会などを通じ、職員同士の交流する機会が設けられており、サービスの質の向上への取り組みが行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望や、現状の把握に努め、関わりを持ちながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が感じている不安・心配・困っている事など、いつでも相談に応じている。要望なども傾聴し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期は環境の変化から不安も多く、ご本人やご家族が何を必要としているのか、何が支援できるのか、相談しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の状態に合わせ、食事準備や後かたづけ、洗濯干しなど生活に添ったお手伝い等と一緒に、お互いに必要な関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か相談があった時やご家族の来訪時など、ご本人も交えて話し合うなど、絆を大切にしながら支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が自由に来訪できる場作りに配慮し、できる限り馴染みの関係が途切れない様、支援に努めている。	学生時代の友人の来訪や、昔の知り合いで家族と一緒にの時は散歩することもある。家族の支援でお墓参りや外食、買い物等に出かける方もいる。利用者の生活歴から趣味等を生かし、役割の場を提供して暮らしが継続できるように支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係の把握に努め、一人一人が孤立しない様関わりを持っている。利用者同士のコミュニケーションを通じ、支えあえる様、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要にサービス利用終了後も相談に応じ支援に努めている。ご家族からその後の様子連絡なども頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら、ご本人の訴えや希望の把握に努めている。本人主体でとらえ検討している。	ほぼ会話が可能で、意向を引き出し難い場合は表情で汲み取っている。利用開始時にセンター方式で家族がシートに記入しているが、その後情報の蓄積が十分とはいえない。	介護計画の見直し時に、センター方式の「B-3」シートを活用し、趣味嗜好などの変化を追記し、利用者との会話に生かされるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援に必要な情報として、職員全員が把握し共有できる様、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態の把握に努めている。個々の過ごし方など、その方らしさを大切に支援に活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを月に1回行い、現状に即した介護計画に活かすべく検討を行っている。また、変化時には随時モニタリングを実施し、反映させている。	3か月ごとに各職員がモニタリングを行い、カンファレンスで評価を基に介護計画を作成している。日々の記録は短期目標に沿って、支援内容の変化等も記録している。今後は見直しで支援内容の変化がすぐ分かるような記載方法を考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入し、状況の把握に努めている。他の職員の記録も目を通し、情報の共有し、見直しなどに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の健康状態や精神的な訴えに対応し、新たなニーズにも適宜対応できる様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し協力を得ながら、ご本人の心身の力が発揮でき楽しめる様支援に繋げている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ビル1階に主治医である内科があり、訪問診療で支援している。入居時にはご本人の健康診断を実施しご家族とも面談を行い、納得が得られる医療を受けられる様、支援している。	訪問診療の他、緊急時には事業所に対応し、受診内容を各書式に記録している。現在検討している書式を活用して今後は個人ごとに往診、受診の経過が分かるように記録の整理を行い、詳細な内容は日付で各記録に辿れるように考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内科の看護師が、医師の指示のもとで支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や関係づくりを大切にしている。入院時は介護添書にて情報交換や相談に努めている。早期退院にはソーシャルワーカーからの情報で、ご家族との連絡を取りながら受け入れなどを伝えるなど対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に重要事項説明書に記載されている内容を十分説明している。重度化しそうな段階を見極め、医師と相談し、話し合いを行いご本人にとって一番良い方法で支援に取り組んでいる。	「入居者様が重度化した場合の対応に係る指針」に看取りの考えがあり、利用開始時に看取りは難しいことも説明して同意を得ている。医療的な行為から入院になるが、治療終了後は家族の希望に沿って再入居になる事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルは職員全員で把握に努めている。応急手当や対応の訓練を定期的に行っていない為、研修に参加した職員が、他職員に伝える場を作り、共有に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災対策をしている。利用者も参加し、消防署立会いのもと、昼夜想定火災避難訓練を実施し、隣接の老健の協力を得て、水害時の避難訓練も行っている。	昨年度は防災会社の立ち会いで、昼夜を想定した火災避難訓練と水害を想定し3回の訓練を実施している。訓練に地域住民の参加は得られていない。地震では行動指針の情報を収集しているが訓練までには至っていない。	次回の避難訓練には隣接している施設職員や住民の参加を得て行われるよう期待したい。地震等の行動指針を作成し、職員間で対応を確認するよう期待したい。職員の救急救命訓練の受講を引き続き計画的に実施されるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が、尊厳やプライバシーを損なう事の無いような声掛けの仕方に努めている。職員同士もその言葉で良いのかなど、意識を持ち対応している。	内部研修や業務の中で、上から目線の言葉遣いや対応をしないように指導している。プライバシーに配慮し、個人的なことは事務所で話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のおもいや希望を遠慮すること無く表せるよう傾聴したり、自己決定できる様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を主体とし、個々の暮らしを大切にしながら、できるだけ希望に添えるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたリアクセサリーを身に着けるなど、その人らしいおしゃれもされている。洋服選びなどはさりげなく、自己決定できる様、支援している。また、毎月訪問理美容サービスも実施している。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や盛り付けなど、食べる前の段階から楽しめる様支援している。職員も一緒に食事を摂り、後片付けなども一緒にしている。	利用者の好みに合わせて主食をパンに変更したり、調理法を変更することもある。いなり寿司やどら焼き等を利用者と一緒に作ったり、敬老会に出前を取って食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の管理栄養士が献立を作成し、栄養バランスの整った食事となっている。水分量は不足しない様に支援しており個々の状態にも合わせている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方には職員が行っている。声掛けや見守りなどここに応じた支援をしている。夜間は義歯をお預かりし、洗浄剤を使用し清潔を保っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ支援している。失敗時には声掛けにも配慮し誘導を行っている。できるだけ失敗の無い様に努め支援を行っている。	各利用者に応じた対応を行いながら、できる限り昼夜共にトイレでの排泄を支援している。利用開始時にパッドやおむつを使用している場合も、排泄間隔を把握して可能な限り布パンツ等で過ごせるように自立に向けて取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供し、おやつにも乳製品を使用するなどしている。適度に体を動かしたり、腹部のマッサージを取り入れ便秘の予防に繋げている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態や精神状態に配慮し、週2回の入浴は確保出来ている。入浴希望時やタイミングに応じて入浴支援している。	平日の午後の時間帯で、週2~3回の入浴を支援している。身体状況に応じてシャワー浴で対応することもあるが、浴槽にお湯を張り、足浴も一緒に行いながら体が温まるように工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣に合わせ、環境づくりをし安心して休める様に支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で薬の理解に努めている。服薬時も職員2名で確認・対応し飲み忘れなどないように実施、症状変化など、観察にも留意し対応している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや生活リハなどを通じ気分転換を図れるよう支援している。ご本人の得意な事などを把握し、力の発揮に繋げている。			

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おおぞら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩などの外出支援をしている。ご家族の協力を得ながら、外出を楽しめる様、努めている。	車両の関係で遠方への外出機会は少ないが、天気の良い日は近隣を散歩したり玄関先のベンチで外気浴をしている。戸外での歩行が困難な方も、車椅子を利用しながら桜の花や水芭蕉見学等に出かけ、季節感を感じられるように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針で、個人での管理はしていないが、立替として事務所管理となっている。買物の際の支払いは、職員と一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望が、電話の対応や郵便物にも対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花を飾ったり、四季に応じた環境作りも考慮している。生活空間では迷う事の無い様に工夫し、居心地の良い場所を提供できる様、努めている。	広々とした居間や食堂は、利用者が安全に生活できるように家具の配置を工夫している。トイレにカーテンを設置してドアを開けても中が見えないようにプライバシーに配慮している。壁には、季節の装飾や散歩や食事作り風景など日常生活の写真が多く掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットを行き来したり、事務所からそとを眺めるのが好きな方もおり、都度対応している。個々が好きな場所でくつろげるよう、ソファやベンチも活用されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮しながら、使い慣れた物などを持ってこられている。ご本人が安心できる居室となる様、支援している。	造りつけのクローゼットがある居室で、使いやすい間取りになっている。タンスやテーブル等好みの家具を持ち込んで、本人が生活しやすいように配置している。家族の写真等を壁に飾り、その人らしい落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーとなっており、共同スペースはすぐに分かるようになっている。自立した生活ができる様、工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400309		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム ほしおき だいち		
所在地	札幌市手稲区星置1条4丁目2-12 星置駅前メディカル2F		
自己評価作成日	平成29年9月22日	評価結果市町村受理日	平成29年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の3点である ①いつも笑顔で暖かく見守ります。②目配り、気配り、心配りを大切にしてチームケアを行っていきます。③地域とのふれあいを大切に明るい穏やかな生活をしていきます。を大切に、毎日のケアに取り組んでいるホームです。
同ビル1階には内科があり、日曜・祝日以外は、ホームの主治医として、毎日訪問診療の協力をいただいております。健康状態など、様々な相談にのっていただいております。
JR星置駅からも数分の場所に位置し、近所にはスーパーや公園などもあります。散歩を楽しんだり、町内会のイベントに参加するなど、地域との交流を図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0190400309-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年10月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と各ユニットに掲示している。また、朝・夕の申し送り時に唱和し、共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、会議にも参加している。月に1回ボランティアを招き、手品と歌を披露して頂いている。見学者を積極的に受け入れ、交流を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、ご家族や町内会地域の住民や地域包括支援センターの職員の参加を得て、認知症ケアについての情報交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月の行事の取り組みの様子や日常の様子を伝え、自己評価や外部評価の項目についても触れる機会を持っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市手稲区の管理者会議に出席し、事業所の実情やケアサービスについての実際について伝え協力関係を構築している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の身体拘束についての研修会を実施し、職員間で話をする機会を持ち、日常のケアに役立っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に全体会議や研修の中で取り組むと共に朝夕の申し送り時に虐待の種類を唱和し意識を高めている。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修に参加し、報告の場を設けることで学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、重要事項をわかりやすく説明し、理解・納得を得ている。改定時には、本社より書面での説明があり、ホーム来訪時には、管理者からも説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社に苦情相談窓口を設置し体制づくりをしている。また、ご家族の来訪時には、話しやすい環境づくりに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる職員会議の中で、意見や要望を聞き、月例会議にて、運営者に報告をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談をする機会を持ち、意見交換や要望を聞くことで、向上心を持って働けるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を職種・階層別・目的別に行い、職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の内部研修の中で、交流する機会を設け情報を共有することで、サービス向上につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃から関わる機会を持ち、思いや現状を把握し、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に日常の様子を伝えるなど会話の中での関係づくりに努め、要望や困っていることを伝えやすいようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェイスシートを活用したり、ご家族やご本人との面談の中で希望を聞き、必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状況を見極めながらレクリエーションや日常の会話の中で関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人を交えての会話の時間やご家族との外出の時間を持って頂くなど、共に支えるという思いを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方が来訪された時には、居室にてゆっくりと過ごして頂く環境を整え関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に過ごせる場を作ったり、入居者同士の関係が保てるようさりげなく間に入るなど支援してる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時にも必要に応じて相談を受けるなど、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、希望されていることを把握し、毎月のカンファレンスで検討し、共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート・ご家族との面談や日常の生活の中からも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りや介護記録で現状を把握し共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで個別のモニタリングを行い、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録にその日の様子を記入することで情報を共有し、日々の支援や介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望・希望に耳を傾け、柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや町内会の協力を得たり、ボランティアを招き楽しめる機会を持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ビル内に内科・整形外科があり、月2回主治医による訪問診療を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医である内科の看護師が週に1回訪れ、会話を交えて、体調や現状を把握してくださっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医療関係者と情報交換を行うと共に入院時には看護添書を作成している。早期退院の場合には、ソーシャルワーカーからの連絡をもとにご家族へ連絡し、受け入れ体制をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に事業所の方針を口頭説明している。入居者が重度化した場合には、早い段階から医師と相談し最良の方法での支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生マニュアルがあるが現状では生かされていない。今後、応急処置の研修受講について考えていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策体制はできており、年2回入居者参加の避難訓練を実施。今後、地域の方の参加について具体策を出していく。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が日常の生活の中で意識しながら、声掛けをしている。ご本人の尊厳やプライバシー保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりの中で、何を希望されているかを話せる雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、できる限り希望に沿えるよう取り組む努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問美容サービスがあり、それぞれ希望によりカットや髪染めなどされている。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの芽取りを手伝って頂いたり、食事中に料理についての会話をするなど楽しい雰囲気です食事ができるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の管理栄養士のもとで栄養バランスを考えた献立となっている。食事量・水分量をチェック表に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、個々に応じ支援している。定期的に訪問歯科の往診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに間隔を把握しながら声掛けや誘導をし、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時牛乳を提供したり、水分チェック表により、水分が足りない時には、提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日の健康状態や精神状態を考慮し、週2~3回入浴して頂いている。ご本人の希望に沿うように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に合わせて室温の調整や明るさを考え、リラックスできる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、職員2人で対応し、誤薬防止に取り組んでいる。また、薬の変更時には、職員間で情報を共有し、様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションは、全員が楽しめるよう提供の仕方を工夫したり、体を動かすものを取り入れ飽きないようにしている。月ごとの行事を計画し、気分転換を図っている。		

ふれあいの里 グループホーム ほしおき

自己評価	外部評価	項目	自己評価(だいち)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出支援は、常時行っている。天気の良い日には、玄関前で日光浴をしたり、近道を散歩できるように取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針として金銭は、会社立て替え金として買い物に利用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で、電話を利用できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間TVが視聴できるようソファを置いたり、行事や日常の様子を写真を掲示したり、季節感のある飾りを貼って楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やレクリエーション以外は、居間でテレビを見たり、本を読むなど思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・ベットなどご家族と相談し、安全に使い慣れたものを利用して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっているため移動に不自由がない。また、各部屋の入り口にはネームプレートを付け、トイレもわかりやすいよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム ほしおき

作成日：平成 29年 11月 1日

市町村受理日：平成 29年 11月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	介護計画の見直し時に、センター方式の「B-3」シートを活用し趣味、嗜好などの変化を追記し、利用者との会話に行かされるよう期待したい。	・フェースシート センター方式B-3を活用する。	・職員が入居者様との会話の時に、入居者様の趣味、嗜好を意識した会話をして入居前より何が継続し何を忘れていくか等を常に会話の中で意識して入居者様の状態を把握する。	6か月
2	4	会議案内にテーマを記載して送り、参加出来ない家族の意見も得て会議に活かし、各報告のほか、情報、意見交換の場としての質疑応答が分かるような議事録の記載方法に期待したい。	・テーマを持った会議の進め方。会議の内容をいかに議事録に分り易く記録する。	・現在は運営推進会議の時にはGHほしおきの入居者様の状態や行事、研修等の報告に重きを置いて進めていた。その他で、御家族からのお話や疑問についてお答えしていたが、今後は特にテーマを決めて話し記録に反映して行くようにする事を意識して行く。	1年
3	35	次回の避難訓練には隣接している施設職員や住民の参加を得て行われるよう期待したい。地震等の行動指針を作成し職員間で対応を確認するよう期待したい。職員の救急救命訓練の受講を引き続き計画的に実施されるように期待したい。	・救急救命訓練の受講を職員が受ける。 ・隣の施設職員や住民にも参加していただき避難訓練を行う。	・救急救命訓練は全員は受講していない。今後はGHほしおきだけでなく、他のGHの職員との連携も含め職員が訓練を受けられる様に講習を設定する。また避難訓練については他の施設の協力及び住民の参加をお願いする。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。